



KDDI 総研 R&A 誌は定期購読  
(年間 27,468 円) がお得です。  
お申し込みは、KDDI 総研ブック  
オンデマンドサービスまで。既刊  
の PDF 無料ダウンロードの特典  
もあります。

(<http://www.bookpark.ne.jp/kddi/>)

## インド、Tataグループ (VSNL) による国際網の拡充

🕒 記事のポイント

### サマリー

インドのTataグループ（傘下に国際通信の老舗VSNL）は、①2004年後半に印星間海底ケーブル（Tata Indicom Cable）をサービスイン、②2005年6月に世界的海底ケーブル網のTyco Global Networkを買収、③2005年7月にTeleglobeの買収に合意、④2005年8月にインド5位の携帯電話会社Idea Cellular株の保有率増に合意（米Cingularから株式購入）するなど、活発に動いている。本稿では、国際網の拡充を中心に同グループの動きについて考察した。

主な登場者 Tata VSNL Tyco Teleglobe Idea Cellular

キーワード 国際海底ケーブル 国際ホールセール 携帯電話

地域 アジア インド

執筆者 KDDI総研 政策研究G 河村 公一郎 (ko-kawamura@kddi.com)

Tataグループは由緒ある大手財閥であり<sup>☞ (脚注)</sup>、通信事業には1990年代半ばに固定系のTata Teleservicesを通じて参入した。その後、携帯電話事業者（現Idea Cellular）への資本参加、国際通信老舗のVidesh Sanchar Nigam Limited（以下「VSNL」）の子会社化など、通信分野への関与を拡げている。



☞ (脚注)

主要ビジネス分野は7つ（サービス、材料、エンジニアリング、エネルギー、消費財、化学製品、通信・情報システム）であり、世界に100近くの企業群を持つ。雇用人数は約22万人である。

## 1 印星間海底ケーブルTata Indicom Cableが運用開始

シンガポールをはじめ、東南アジアには印僑が多く、両地域の関係は歴史的に深い<sup>①</sup>。特に経済面では、2003年10月にインド・タイ自由貿易協定が、2005年6月にはインド・シンガポール包括経済協力協定が署名されている。

こうした状況を反映し、東南アジアのケーブル網のかなめとも言えるシンガポールとインドの間には近年海底ケーブル建設が目につく。(図表1参照)

VSNLは2004年11月、印星間初の100%インド資本の海底ケーブルTata Indicom Cable (以下「TIC」)をChennai (印) / Changi (星) 間で正式に運用開始した。全長3,175kmで、当初容量は320Gbpsであるが、DWDM (Dense Wavelength Division Multiplexing) 技術により5.12 Tbpsまで拡大可能である。

バックホール回線は、ChennaiではVSNLのPOP (Point of Presence) がある市内のビルまで延びており、VSNLの国内網 (200以上の都市を接続) に展開されている。また、Changiでは、キャリア中立のPOPであるGlobal Switch (iDC事業者) まで延びている。

【図表1】 インド、シンガポール間における近年のケーブル建設

ケーブル名	最大容量	建設主体	運用開始時期
TIC	5.12 Tbps	VSNL	2004年11月
i2i	8.4 Tbps	Bharti、SingTel	2002年7月

## 2 VSNLがTyco Global Networkを買収

2005年6月、VSNLは世界的海底ケーブル網であるTyco Global Network (総延長約60,000km) をTyco Telecommunications社<sup>②</sup> から1.3億USドル (約144億円)<sup>③</sup>



① (脚注1)

先進地域シンガポールは優秀で努力家の華僑と印僑によって建設されたと言ってもよい。このため、シンガポールとインドの関係は歴史的にも深く、シンガポールには約1,400のインド系企業が存在している。また、シンガポールの印僑の法律家が、インドの通信政策へのアドバイスを رفتりしている。

② (脚注2)

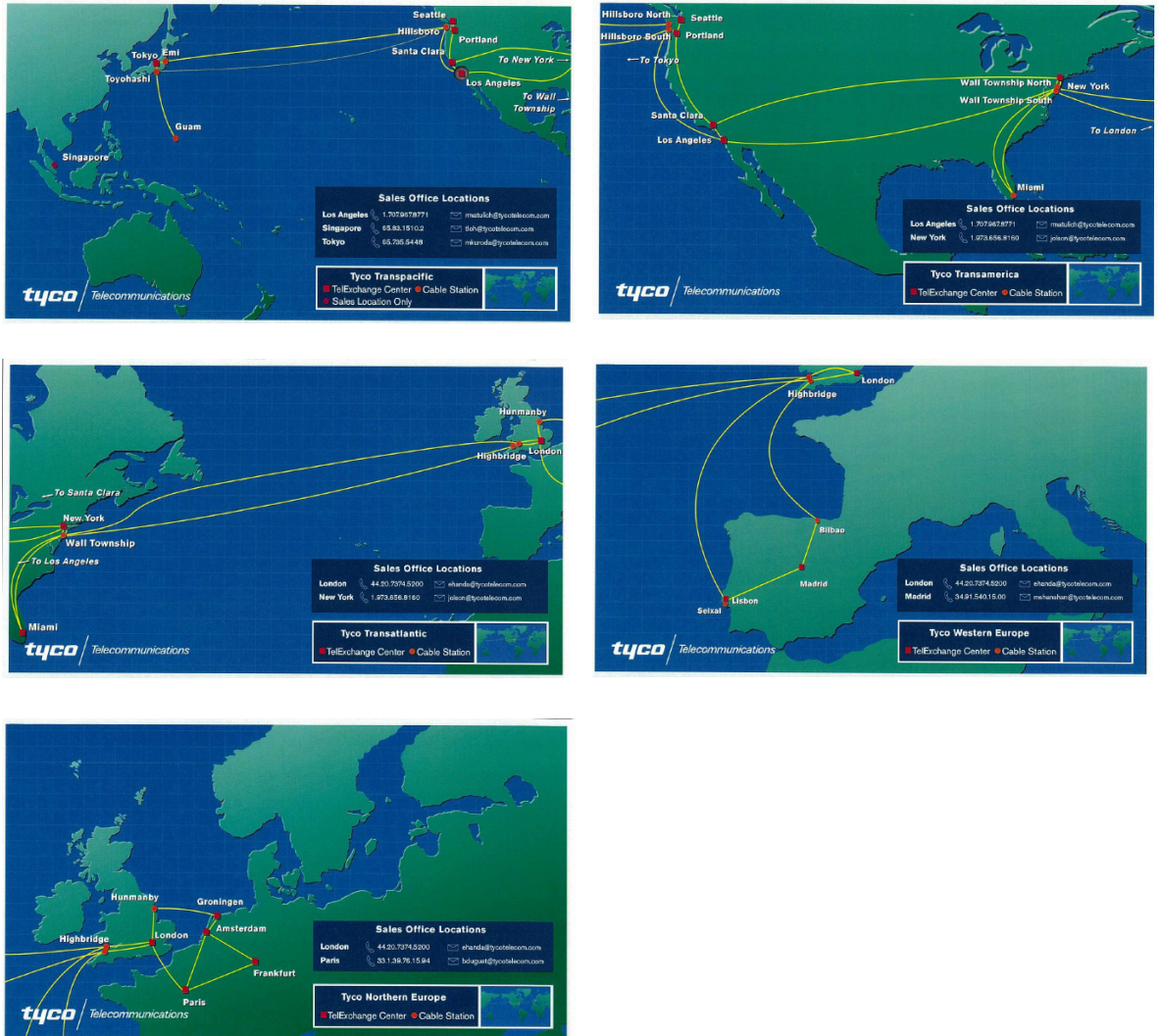
グローバルな多角的事業体であるTyco International社 (本社 : Bermuda) の電気通信部門で、本社は米国New Jersey州のMorristownにある。

③ (換算率)

1USドル=110.79円 (2005年9月1日付け東京市場TTMレート)

(換算率) で買収したと発表した。VSNLはTyco Global Networkの買収で、全世界12カ国に30のPOPを得た。図表2にTyco Global Networkの構成図を示す。

【図表2】 Tyco Global Networkの構成図



出典：Tyco Communicationsのホームページ  
([www.tycotelecom.com/marineservices/content.asp?page=Marine\\_Liaison.asp](http://www.tycotelecom.com/marineservices/content.asp?page=Marine_Liaison.asp))

Total Telecom記事（2005.9.1）によれば、1.3億USドルの買収額は「1ドルかかった物を5セントで買った」ことに相当し、VSNLはITバブル崩壊で評価の下がった海底ケーブルを超安値で取得することに成功した。<sup>④</sup>（脚注）

【図表3】 Tataグループの主な通信関連会社

会社名（URL）	主要事業内容等	グループの 所有率
Tata Telservices (www.tataindicom.com/ misc/ttsl.asp)	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定通信、WLL/セルラー（CDMA2000 1x）</li> <li>20サークル（免許エリア）で営業</li> <li>顧客数400万以上</li> </ul>	過半数
VSNL (www.vsnl.com)	国際通信、国際ホールセール、インターネット接続	約47%
Idea Cellular (www.ideacellular.com)	<ul style="list-style-type: none"> <li>セルラー（GSM900/1800）</li> <li>2005年3月現在加入数507万 シェア9.5%（インド第5位）</li> </ul>	33.3%
Tata Consultancy Services (www.tcs.com)	SI、ソフト開発	約84%

（各種資料をもとにKDDI総研で作成）

### 3 VSNLによるTeleglobe買収の合意が成立

2005年7月、VSNLはTeleglobe（本社：Bermuda）を2億3,900万USドル（約265億円）で買収することを発表した。買収には規制機関や株主の合意が必要で6～8ヶ月かかると見られているが、これが実現すると、VSNLは、全世界240ヶ国（地域）に到達する通信網に加えて、約1,400の事業者顧客（固定通信事業者、携帯電話事業者、ISP）、200以上の事業者間国際協定を手中に納めるとされる。



④（脚注）

同じTotal Telecomの記事によれば、Reliance Infocomm（CDMA2000 1x携帯電話事業を中核とする総合的通信事業者）もFLAGケーブルを2003年に2億1,100万USドル（約234億円）で買収したが、これは「1ドルかかった物を6セントで購入したことに相当」としており、インドの事業者は時流の潮目を上手く読んだと言えるだろう。

【図表4】 Teleglobeの国際ネットワーク



出典：Teleglobeのホームページ

(http://www.teleglobe.com/en/our\_network/default.asp)

## 📖 執筆者コメント

インドには、固定系、モバイル系双方のサービスを提供する総合的な通信事業者は4社ある。すなわち、①Tata、②Reliance、③BSNL (MTNLの地盤以外)、④MTNL (Mumbai、New Delhiを地盤)である。携帯電話大手のBhartiにも固定系部門 (Bharti Telesonic) があるが、今のところモバイルへの注力が目立つ。この中で、グローバルプレゼンスを持つのが、TataとRelianceである。

Relianceが2003年にFLAGを買収しグローバルキャリアとなったことで、法人向けの国際データ通信サービスをはじめ国際通信の老舗として鳴らしてきたTata系VSNLも安穏としていられなくなった。例えば、伝統的事業者のBSNLは2005年5月、米国向け音声トラフィックの運び手としてRelianceを選んだ。VSNLがTycoを買収し、Teleglobeの獲得<sup>(脚注)</sup>も決めた背景の一つにはこうした国内競争がある。



(脚注)

Tycoに加えてTeleglobe獲得にも動いたことは冗長な行動ととれるが、Tycoはインフラ網、Teleglobeは事業者顧客その他の付加価値のついたサービス網との整理が可能だろう。

また、ITバブルの崩壊で世界のDWDM方式の海底ケーブルの顕在、潜在容量がだぶつき、海底ケーブルが買い手市場となったことも、インドや中国のようなBRICs（新興経済大国）に属すキャリアのプライベート型海底ケーブルへの購入意欲を誘ったと考えられる。インドや中国のキャリアは資金力をつけてきており、世界に対する示威意識も強い。

SEA-ME-WE 4ケーブルの建設（2005年10月運用開始予定）などを踏まえると、ITバブル崩壊後の国際インフラビジネス、ホールセールビジネスの低迷もゆっくりではあるが反転していく気配も感じられ、この時期にTata系VSNLが国際網を拡充したことは将来吉と出る可能性もあるだろう。

なお、国際市場よりも規模の大きい国内市場、特に携帯電話市場での足場固めは必須である。Tataグループは、Tata Indicomの共通ブランドのもと、求心力を強めようとしているが、携帯電話のIdea CellularはBirlaグループによっても所有されており<sup>④</sup>（脚注）、同ブランド下にあるとは言えない。今後はIdea Cellularへの対処、Tata TeleservicesのWLL/セルラー（CDMA2000 1x）も含めた移動体通信事業の総合的強化が一つの焦点になるだろう。

成長を続けるインド通信市場にあって、Tataグループが引き続き一角を占めていくことは間違いないと思われる。

## 📖 出典・参考文献

- Total Telecom ([www.totaltele.com](http://www.totaltele.com))
- EMC World Cellular Database
- Tyco Telecommunicationsのホームページ ([www.tycotelecom.com](http://www.tycotelecom.com))
- VSNLのホームページ ([www.tata.com/vsnl/releases/20041103.htm](http://www.tata.com/vsnl/releases/20041103.htm))
- シンガポール貿易産業省のホームページ  
([http://www.mti.gov.sg/public/FTA/frm\\_FTA\\_Default.asp?sid=153](http://www.mti.gov.sg/public/FTA/frm_FTA_Default.asp?sid=153))
- Rediff India Abroadのホームページ  
(<http://www.rediff.com/money/2003/oct/09fta1.htm>)
- CDMA Development Groupのホームページ  
(<http://www.cdg.org/worldwide/index.asp#result>)



<sup>④</sup>（脚注）

Idea Cellularは、従来、Tata、Birla（1800年代創業の多角的財閥）、米AT&T Wireless（現Cingular）に3分の1ずつ所有されていたが、2005年8月、Tata、BirlaがCingularの保有株を3億USドル（約332億円）で買収することが合意された。買収が成立すると、Tata、Birlaはそれぞれ約半数の株式を保有すると思われるが、Ideaへの影響力を強めることがTataの課題であろう。